歴史散歩

れきしさんぽ No.19

久留米市の天然記念物2

高良山のモウソウキンメイチク林

水縄断層

●高良山のモウソウキンメイチク林（国指定）

昭和49年11月25日　御井町

モウソウキンメイチクは、中国原産モウソウチクの変異種で、漢字で「孟宗金明竹」と書きます。昔から珍しく、江戸時代この竹が見つかると、かわら版で騒がれたといいます。

この金明竹は、表皮3層が変化して、黄金色の中に緑色の縦縞が節間に交互に現れたものです。また竹の皮には、黒い斑点があり、葉には葉脈の中に白線が見られるものもあります。

●水縄断層（国指定）

平成9年7月28日　山川町

耳納連山は、水縄活断層の活動によってできたものです。この断層は、1000年あたりの平均的なズレの量が10cm～1m以下の右横ズレを伴う正断層とされています。またそれらの断層崖は、急傾斜の谷によって開折されているものの、なお新鮮な崖地形をしており、その形成が比較的新しい時期に起こり、いまなお継続していることを物語っています。

活断層は調査により、4回の活動痕跡が確認され、直近の活動による地割れに土師器が含まれ、上部が鎌倉時代の土層で覆われていたことや、筑後地区に残る地震の痕跡・資料などから、『日本書紀』の天武7年12月(679)の条にみえる、筑紫国地震の震源断層であることが解りました。これは文献に記載され、年代がわかる地震としてわが国最古の地震です。その規模は、M7で兵庫県南部地震に匹敵するものでした。

●カササギ生息地（国指定）

大正12年3月7日指定　荒木町、大善寺町、安武町一円

カササギは鴉科の一種で、日本では久留米市を含む福岡県南部、佐賀県、長崎県など九州北部に分布しています。もとは朝鮮半島や中国に住んでいました。

渡り鳥ではないこの鳥が日本にやってきたのは、その昔、豊臣秀吉が朝鮮に出兵した時に、「カチカチ」という鳴き声が「勝ち」につながるということで、縁起の良い鳥として持ち帰り、繁殖したのだといわれています。別名「カチドリ」・「カチガラス」などと呼ばれています。

カササギ

カラスより小型で尾が長く、黒色の翼に白い斑点がある美しい鳥です。早春のころに高い木の上に、小枝と泥で固めた巣をつくります。街中では電柱に作られた巣を見かけることもあります。薄緑色の卵を５～６個産み、20日程で雛が生まれ、3～4週間で巣立ちます。

高良大社の樟樹

●高良大社の樟樹（県指定）

昭和39年5月7日　御井町

高良大社では、御樋代（ご神体の容器）などが樟で作られていたため、樟を神聖視し、社殿はもとより日常の用具に至るまで、一切樟材を使用してはならない定めがあったといわれています。

この樟樹は、相当に老齢のもので、高良山中興の祖、座主寂源が植樹したと云われ、正参道の樟樹で大社の御神木として永く崇められてきました。 指定された樹木は2本あり、双方合わせて地際約30ｍあります。

●長岩山のサザンカ自生地（県指定）

昭和60年5月28日　草野町

サザンカ（山茶花）は、ツバキ科の植物で、わが国では九州・琉球諸島・四国地方の温暖な山地に自生し、11月頃に平たく開いた直径５～８㎝の白い五弁の花をつけます。

椿とよく似てますが、サザンカは花びらがばらばらに散るのに対し、椿は花ごと落ちます。

長岩山のサザンカ自生地

また、子房に白い毛が密集し、葉の主脈や若枝に細かい毛が出るのもサザンカの特徴です。

長岩山には、２haに平均樹高４ｍ、幹の直径が７～８㎝のサザンカが数千本ほど群生し、自生地としては佐賀県東背振村の「千石山サザンカ自生北限地帯」に次ぐ規模を誇っています。

福聚寺のイヌ槙

●福聚寺のイヌ槙（市指定）

昭和53年6月24日　合川町

昔、参道の両側に門柱として育てられたと伝わりますが、福聚寺の創建が、今から約250年前のことであることから、推定される樹齢からみても境内にあった古木を大切にしてきたものと考えられます。

１号木（西側）と２号木（東側）との2本からなり、いずれも高さ15ｍを超える樹勢旺盛な巨木です。

●宮ノ陣の将軍梅（市指定）

昭和63年2月24日　宮ノ陣町

正平14年(1359)8月に、後醍醐天皇の皇子である征西将軍宮懐良親王が、菊池武光、草野永幸ら宮方の軍勢を率い、南下してきた少弐頼尚の率いる足利方の大軍と筑後大保原(現在の小郡市)で激しい戦いをくりひろげました。これが南北朝期の有名な「大保原の合戦」です。

宮ノ陣の将軍梅

そのときに、懐良親王がこの地に陣を張ったことが、「宮ノ陣」の由来になったといわれています。宮ノ陣神社の境内に残る将軍梅は、この時に戦勝を祈って親王自らが手植えしたという伝説を持ちます。

それ以来、600年以上もの長い年月を経て、老木から芽生えた若木へ連綿と命をつないできた将軍梅は、地元の人達に大切に守られてきました。

現在も毎年3月上旬頃から遅咲きの花を咲かせ、訪れる人々に歴史を語りかけてきます。

永勝寺のケンポナシ

●永勝寺のケンポナシ(市指定)

平成5年6月22日　山本町

ケンポナシは、永勝寺境内には、東斜面及び南側の雑木林に数本見ることができます。雌雄同株で、果実は有毛で径が約7㎜の球をしています。葉は広卵形をしており、葉脈が基部から3分割しているのが特徴です。開花は6～7月に見られます。果実の部分ではなく、果柄の肥大したものを食用としていました。また薬用としても用いられていました。

柳坂のアカメヤナギ

●柳坂のアカメヤナギ(市指定)

平成5年6月22日　山本町

アカメヤナギは、双子葉植物、離弁花類、ヤナギ科、ヤナギ属の落葉高木です。分布は、本州関東地方以南と四国・九州などの川縁や湿地に一本立ちとして見られます。名前の由来は、新芽がやや赤みを帯びていることから呼ばれています。

柳板のアカメヤナギは、耳納山地の裾で扇状地へと広がる付根にあり、周囲は沢が流れ、杉の樹林のなかに一本立ちして生息しています。地元では「柳板」の地名の由来と伝承され、樹齢も200年以上と推定されており、すでに壮年期を越えていますが樹勢は旺盛です。

高良大社のツツジ群生地

●高良大社のツツジ群生地

平成13年3月27日　御井町

久留米ツツジは江戸時代末、久留米藩士坂本元蔵(1786－1854)がキリシマツツジを原種として苦心の末、新種の育成に成功したことでよく知られています。坂本は高良山と梅林寺のキリシマツツジから種子を採取しましたが、現在梅林寺境内にはツツジ古木は見当たらず、ツツジ古木群生は高良山に残るのみになっています。

ツツジ群生地は、社殿の背後から南側の崖斜面にあり、樹齢200年を超えると推定され、久留米ツツジの原木の可能性が高いものです。

久留米市の指定天然記念物分布図

天然記念物一覧

1. カササギ生息地
2. 高良山のモウソウキンメチク林
3. 水縄断層
4. 善導寺の大樟
5. 高良大社の樟樹
6. 柳坂曽根のハゼ並木
7. 善導寺の菩提樹
8. 長岩山のサザンカ自生地
9. 筈崎八幡宮の大イチョウ
10. 福聚寺のイヌ槙
11. 宮ノ陣の将軍梅
12. 柳坂のアカメヤナギ
13. 永勝寺のケンポナシ
14. 高良大社のツツジ群生地

◆歴史散歩No.19◆　平成16年3月31日　発行：久留米市教育委員会
〒830-8520　久留米市城南町15-3